

令和5年度 社会福祉法人 協愛福祉会 施設自己評価表

(保育理念)
Happy+Natural
Happy+challenge

(保育目標)
げんきな子 やさしい子
がんばる子 ゆたかな子

A：よくできている B：わりとできている
C：一部改善が必要 D：改善しなければならない

	内容	前年評価	今年評価	現状・課題
保育目標について	(1)保育士一人一人が、協愛福祉会の保育理念、保育目標を理解している	B	B	理念については、係など携わっている職員からの発信は出来た。主体性保育についてクレドカードを活用しながら議題にしてきたが、個々のとらえ方の違いが浸透するまでには至らなかった。自己評価や人権チェックシートを活用して4期に分けて子どもの主体性について個々に反省した。(クラス内でも反省)
	(2)子ども一人一人の主体性を大切に保育をしている	C	B	
	(3)すべての子どもについて一人一人の存在と、その人種を尊重している	C	B	
保育について	(1)保育計画に基づき、子ども一人一人の発達の姿や興味を把握して、年間計画、月のカリキュラム、週案を立てている	B	B	個々の計画に沿ってカリキュラムや計画は、立ててるが活動になると月齢や年齢に捉われ個々の成長に対しての配慮にかけることがあった。子ども一人ひとりの理解を深め共有していく。
	(2)3歳未満児は、現在の姿を理解し、一人一人に保育計画を立てている	B	B	
	(3)素材・用具を適切に使用している	B	B	
	(4)環境の構成を意識した保育や過程を常に工夫している	A	B	
	(5)職員間で子どもへの理解を深め、お互いの考えを十分に理解したうえで、保育を行っている	B	C	
	(6)1日の流れ(デイリープログラム等)は現行でよい	B	B	
食育について	(1)食育の重要性を理解し、季節や年齢に合わせて食育計画を立てている	B	B	食育について1, 2歳児クラスが合同保育を行ったことで、2歳児が行っていることにも1歳児が、興味をもっていた。クラスによって保育士と栄養士との連携が取れず意見を交わすことが難しい場面も見られた。
	(2)栄養士、保育士が連携し、会議等で意見を交わしながらより良い給食になるよう努めている	B	C	
	(3)アレルギー疾患等の子どもに対し医師の指導の下、保護者との連携を図り適切な対応を行っている	B	B	
役員構成・研修について	(1)職員の仕事や役割が明確であり、それぞれの仕事を責任を持って行っている	B	B	職員の役割について法人系の職員の声掛けで保育室の環境など活発に変わることもあった。緊急時の危機管理に付いて不審者対策から園全体で話し合う時間が取れた。(防犯対策面の見直しが出来た)
	(2)危機管理意識を持ち、緊急時に対応できる体制が整えられている	B	B	
	(3)園内外の研修は計画を立て実行している	B	B	

保護者支援・情報	(1)保護者に対して、丁寧な言葉遣いと、気持ちの良い対応を心掛けている	B	B	ドキュメンテーションについては、月の枚数を決めるのではなく、その日の活動や行事・子どもの様子を発信したい場面を伝えたいとき都度作成したドキュメンテーションの掲示にしてみたところ、降園時保育士との会話が広がり信頼関係に繋がった。その反面お迎え時間が混雑しても1人の保護者への対応に時間がかかることもあった為、臨機応変に対応するよう繋げて行きたい。
	(2)保護者に子どもの伸びているところや課題を伝え、連携をとっている	A	B	
	(3)様々な園行事を通して保護者との良好な関係を築こうとしている	A	B	
	(4)園日より、ドキュメンテーション、きっぷノート、ホームページ等を通して、保育内容や子どもの姿や保護者への情報を発信している	B	B	
	(5)子どもの個人記録は、個人情報保護法に基づいて管理している	B	B	
	(6)職員に、園内で知り得た事柄に対しての守秘義務を周知徹底している	B	B	

開かれた 保育園	(1)小学校と連携し、情報交換をする機会を待つ		/	(1, 2)該当なし
	(2)気になる子どもの対応について、外部の専門機関と連携をとりながら対応している	B		

子育て支援	(1)地域で子育てをしている親子の交流の場となるように努めている		D	子育て支援としては行っていないが見学者・園児保護者に対して悩みや相談を聞き対応している。
	(2)子どもの心身の発達や育児不安について気軽に相談できるように努めている	B	B	
	(3)園生活の子どもの様子を地域にも発信している	B	C	

総合的な現状と課題

1年の保育の振り返りとして、子どもたちの主体性についてそれぞれ職員のとらえ方、考え方の違いをどのように話、伝えて行くかが課題となった。主体性・子どもたちからの発信を受け入れることで、子どもたちの遊びが広がり集中して遊べる環境作りにつながるクラスもあったが、ただ玩具を出し発展しないクラスは子どもたちが遊びに飽き保育室や廊下を走り回る状態も見受けられた。その状態が続いた時には、子どもの人数が(お休みが多く)少ない時など保育士の人数がいた場合でも怪我が多くなる日があった。

子どもたちの為にと思う、気持ちが強くなる職員が、不適切保育に繋がりそうなときは、他の職員との連携や介入により冷静になれるよう声掛けしたり、気持ちを汲み取りながらコミュニケーションを取るようにしていった。

連絡帳(PIPIO)を通して保護者が今悩んでいることを職員間で共有して降園時に声を掛けたり保護者の話を聞くことでコミュニケーションを取っていき信頼関係を築くことが出来た。

来年度に向かいもう一度法人の理念・四本柱について共有すると共に、子どもたちの主体性(遊びを広げ集中して遊べる環境作り)について会議や園内研修を通して話し合っていき来年度に繋げて行きたいと思う。

園名 ひなたの森保育園分園

氏名 荻野ゆみ